

こちら 道立羽幌病院 です

小児科 須貝先生のお話し

嘔吐（おうと）



吐く、という症状の多くは腹痛、下痢などの症状を伴うことが多く、原因の大部分はウイルス性の胃腸炎です。

これは病気の原因であるウイルスがおなかに入り、体がそれを外に追い出そうとするため、吐いたり、下痢になったりします。ウイルスは便などから手へ、手から口へとつながり、家族や同級生に次々と感染します。手洗いが予防の重要な手段になるのはそのような理由です。感染者のそばの人はよく手を洗いまししょう。（大人にも感染します）

同じような症状は食中毒のときにも起こりますが、たとえ夏でも胃腸炎のほうがずっと多いです。

嘔吐はその他にもさまざまな原因で起こります。風邪のどが痛いときや、痰が多く出るときも子どもはよく吐き

ます。咳をしすぎて吐く子どももたくさんいます。大人では時々、不安や緊張からおなかが痛くなったり、吐いたりする人もいます。子どもでも同じことがしばしば起こります。また、よく心配になるのが、高熱や頭痛を伴う場合です。高熱の場合心配なのは髄膜炎ですが、この見方は以前述べましたのでここでは略します。（2月号を参照）

疑った場合は至急受診してください。頭をけがした後、「繰り返し」吐いた場合も診察が必要です。吐いているときは、脱水に気をつけてください。とくに子どもが小さいほど脱水は危険です。

なお、2カ月未満の赤ちゃんの嘔吐は、それより大きい子どもと原因がまったく違うことがあります。受診してご相談ください。